

背景説明

近年、いじめ、貧困、虐待などに起因する心身の不調、感染症、アレルギー疾患、生活習慣の乱れ、薬物乱用、性の逸脱行動など健康課題が複雑・多様化する中、児童生徒等の保健指導・保健管理や、校内体制及び学校・家庭・地域の関係機関との連携・協働した適切な対応が一層求められ、その中核的役割を担う養護教諭の役割は、一層重要となっているが、養護教諭未配置校や経験の浅い養護教諭の一人配置校においては、児童生徒等の健康課題に対し適切な対応が困難な状況となっている。

目的・目標

- 児童生徒等の健康課題に適切に対応するためには、
- 校内体制や学校、家庭、地域の関係機関等の連携・協働体制の構築が必要
 - 学校、家庭、地域と連携した学校保健活動を推進できる養護教諭の育成が必要

事業の概要

スクールヘルスリーダーの派遣
(退職養護教諭)

経験豊富な退職養護教諭の活用

養護教諭未配置校・経験の浅い養護教諭配置校等

連絡協議会の開催

- ・指導内容の共通理解
- ・収集した現状・課題の検討

<実施主体>

都道府県又は指定都市（67箇所）

<補助率>

スクールヘルスリーダー派遣、
連絡協議会の開催に係る経費の3分の1を補助



【派遣・指導の例】

健康相談の実施、健康課題への対応、校内研修の実施、学校保健委員会の運営、学校医と連携した感染症対策、性に関する指導を始め外部専門家とも連携した健康教育の実施、研修等による不在時の補充、等

成果、事業を実施して、
期待される効果

学校、家庭、地域の連携・協働による子供の健康課題への対応の充実